

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道徳教育と同和教育① ～郡同研から全道研へ～

【今日の授業、涙を流して自分が部落出身だと語ってくれた友だちがいた。私は友だちが言ったとき、手を挙げるつもりでいたのに、何か友だちの存在が大き過ぎて、その友だちの言葉が思い切り、私の心の中の差別意識を刺したような気がした。Y・IさんやS・Eさんが「このまま黙って下を向いているより、友だちの気持ちを受け止めて発表して」と言われたとたん、すごい心の中で熱いものを感じた。

こんなに涙が出る程、この授業に取り組んだのは初めてだった。みんな3年B組の仲間を信頼しているからこそ、泣きながら語ってくれた言葉なのに、今まで下を向いてよそ事を考え、ぶつかってきてくれる友だちにそっぽを向いていた自分が今日すごくはずかしかった。本当に顔から火がでるほどはずかしかった。

私は授業の終わりに2回ぐらい手を挙げたんだけど、チャイムが鳴って発表できなかった。でも私は、私なりに今日みんなの前で語ってくれた友だちの言葉を身体全体で受け止めたつもりです。

最後に私をここまで変えてくれた3年B組のみんな、それから先生に何かのきっかけで巡り会えたことを感謝しています。】

これは、「語る・かたるトーク」(Vol.334～Vol.340)に紹介した1991年度徳島県板野郡同和教育研究大会(以下・郡同研)の公開授業で発言できなかった生徒が生活ノートに綴ったものです。

1991年6月25日(火)郡同研の公開授業から、生徒の姿は大きく変わっていきます。そして、この授業での思いは、1991年10月31日(木)第25回全日本中学校道徳教育研究大会(以下・全道研)会場校徳島市立富田中学校体育館での特別公開授業へとつながっていきます。

「本心を語り合う道徳授業は、生徒一人ひとりにとってかけがえのない喜びとなっていきます。私はそのことを板野中学校での学年全体で語り合う部落問題学習から学んできました。部落問題に関わる資料を通して、語り合いの道徳授業について特別公開授業を実施をさせていただきます。」

これは、全道研の4ヶ月前に開催された全日本中学校道徳教育研究会(以下・全中道)理事会で語った私の言葉です。これに対して、全中道の会長は、厳しい口調で資料の変更を求めてきました。



「あなたがされる公開授業は、大会の参加者全員に特別に授業を公開するものです。そのような授業で部落問題に関わる授業をされるのは、道徳教育の研究会としては避けていただきたい。

この大会には、全国各地から道徳教育について学ぶために多くの先生が参加されます。同和問題は西日本の問題です。特別公開授業は、あくまでも道徳の授業を全国の先生方に届けてください。」

この言葉で、私は、自らの思いを断ち、部落問題や人権問題に触れない資料の選択をします。それが、短編小説「ナイン」(井上ひさし著)でした。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおブランチ共同代表 森口 健司

「ナイン」
著：井上ひさし(講談社文庫)